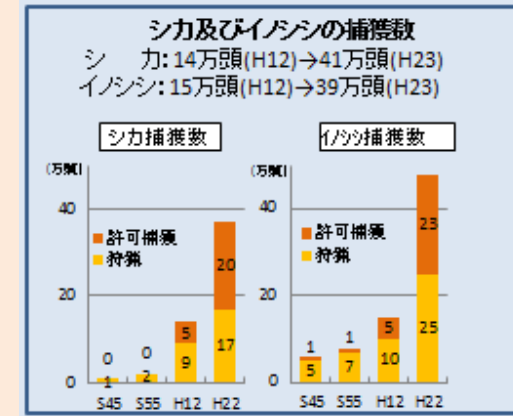
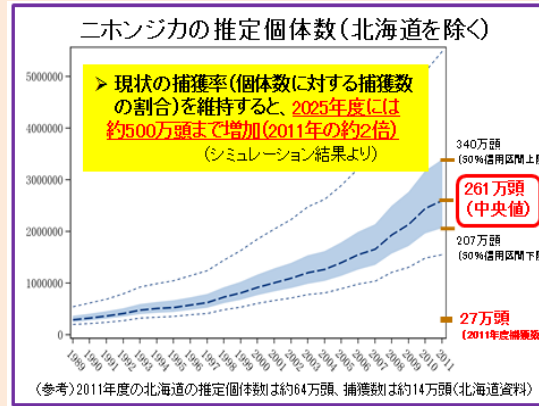


現状と課題

- ニホンジカ、イノシシ等野生鳥獣の生息域の拡大・個体数の増加により、**自然環境への影響**や農林水産業被害が深刻化。
- 鳥獣捕獲の主たる担い手である**狩猟者の減少・高齢化**により**捕獲従事者が不足**しており、鳥獣保護管理に携わる**人材の育成**及び**捕獲体制の強化**等が急務。
- 平成25年9月、環境省において、統計手法を利用して**シカ及びイノシシの全国における個体数を推定し公表**。全国的な観点で対策を強化するためには、都道府県別の個体数推定値を算出し、それぞれの捕獲目標を設定することが必要。



限りあるマンパワーと予算を効率的かつ効果的に活用することが重要であり、戦略的な事業実施が不可欠

甚大な被害を及ぼしている鳥獣の生息状況等調査事業

■ 対象種・・・ニホンジカ、イノシシ

- (ニホンジカ) ・農作物被害に加え生態系への影響が甚大。かつ、広域に移動。
・増加率が高いため、総個体数を減らすことが重要

都道府県毎に個体数の把握と、捕獲目標の設定が急務。

- (イノシシ) ・農作物被害が主であり、加害個体の捕獲が重要
・個体数の多い地域、分布拡大域の先端での捕獲が重要

地域別個体数や分布状況の把握が急務。

■ 事業内容

- ・全国的な生息状況・生息密度等の調査
- ・統計手法を用いた個体数推定及び将来予測

＜ニホンジカ: 都道府県別＞

＜イノシシ: 広域ブロック別＞

国が都道府県別の捕獲目標を設定するなど、科学的根拠をもって強力に指導力を発揮。
都道府県が作成する特定鳥獣保護管理計画に反映し、対策を抜本的に強化(H26以降)